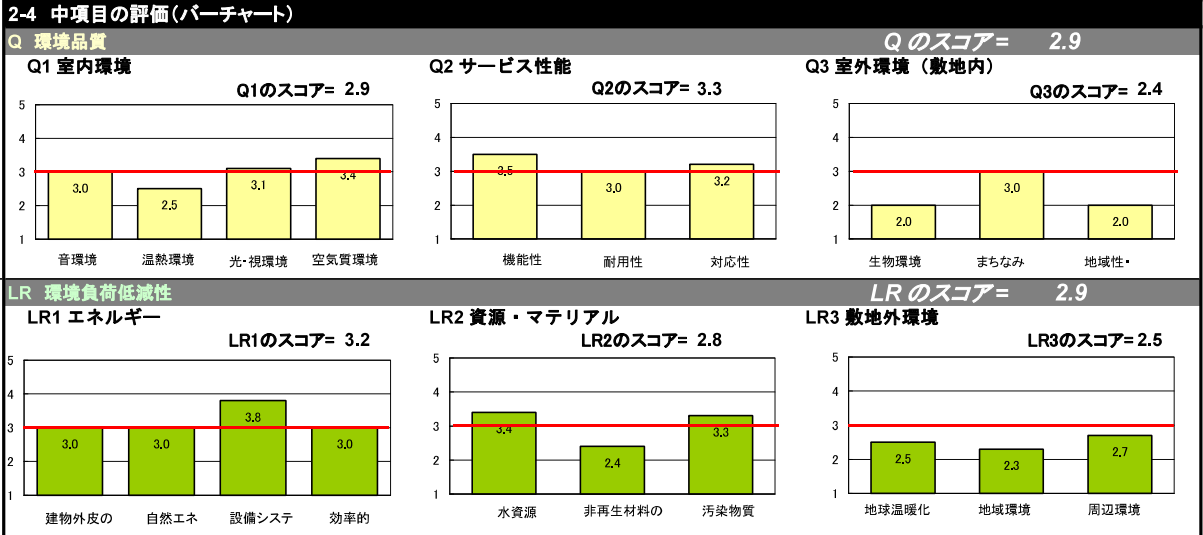
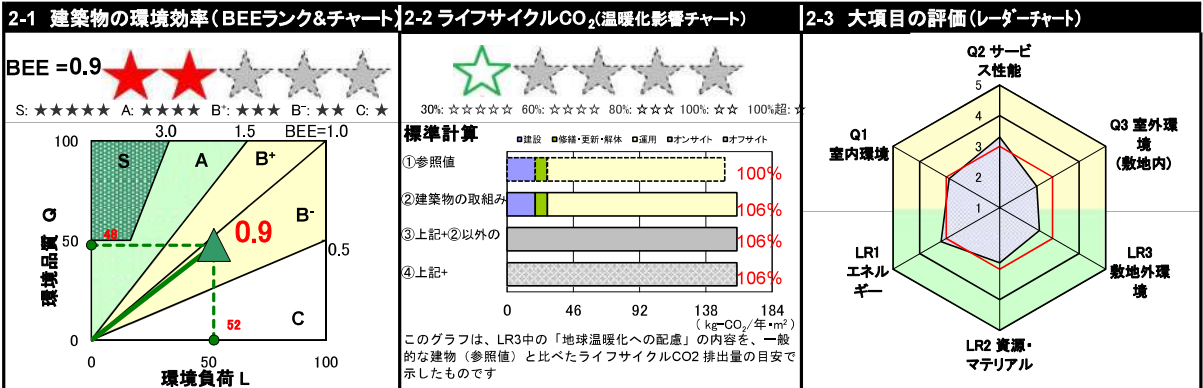


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	meLiV(メリヴ)土橋	階数	地下0階地上6階
建設地	愛知県豊田市土橋土地区画整理事業地内46街区3・4画地	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	35 人
気候区分	4地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年8月 予定	評価の実施日	2025年7月31日
敷地面積	607 m ²	作成者	原澤 孝勇
建築面積	242 m ²	確認日	2025年7月31日
延床面積	1,176 m ²	確認者	原澤 孝勇

(外観パース) 



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
2.5	2.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	23.1 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.7	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
meLIV(メリヴ)土橋

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境						0.40			2.9
1 音環境				0.1	3.0	0.15	3.0	3.0	1.00
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.50		3.0	0.50
1.2 遮音				0.5	3.0	0.50		3.0	0.50
1 開口部遮音性能				-	3.0	1.00		3.0	0.30
2 界壁遮音性能				-	3.0	-		3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	0.20
1.3 吸音				-	3.0	-		3.0	-
2 温熱環境				0.3	2.0	0.35	2.6	2.6	1.00
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	3.0	3.0	0.50
1 室温				3.0	3.0	0.63		3.0	0.63
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38		3.0	0.38
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	-		-	-
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20		1.0	0.20
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30		3.0	0.30
3 光・視環境				0.2	2.4	0.25	3.3	3.3	1.00
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30
1 昼光率				3.0	3.0	0.60		3.0	0.50
2 方位別開口				-	-	-		3.0	0.30
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	0.20
3.2 グレア対策				0.3	2.0	0.30	4.0	4.0	0.30
1 昼光制御			カーテンと庇代わりのバルコニーを設けている	5.0	2.0	1.00		4.0	1.00
3.3 照度				3.0	1.0	0.15		3.0	0.15
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		3.0	0.25
4 空気質環境				0.2	2.8	0.25	3.6	3.6	1.00
4.1 発生源対策				0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63
1 化学汚染物質			シックハウス対応建材利用	3.0	4.0	1.00		4.0	1.00
4.2 換気				0.4	1.0	0.40	3.0	3.0	0.38
1 換気量				3.0	1.0	0.50		3.0	0.33
2 自然換気性能				3.0	3.0	-		3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮				3.0	1.0	0.50		3.0	0.33
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	3.0	-	-	-	-
Q2 サービス性能						0.30			3.3
1 機能性				0.4	2.2	0.40	3.8	3.8	1.00
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	4.0	4.0	0.60
1 広さ・収納性			CATV会社による対応	3.0	3.0	-		3.0	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	-		4.0	1.00
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	1.00		-	-
1.2 心理性・快適性				0.3	1.0	0.30	3.5	3.5	0.40
1 広さ感・景観 (天井高)			CH=2.53	3.0	3.0	-		4.0	0.50
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	-		-	-
3 内装計画				3.0	1.0	1.00		3.0	0.50
1.3 維持管理				0.3	2.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	2.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31	-	-	-
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.1	0.33	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	2.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			壁・天井仕上げビニルクロスの為、20年	-	4.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水、排水でB以上の配管材採用している	-	5.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			0.2	3.1	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.6	3.6	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-		4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.1	1.00			-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性			3.0	4.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30		-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									2.9
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.8	3.0	3.0	0.33		-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17		-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.92	3.0	3.8	0.33		-	3.8
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17		-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0			-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0			-	
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	2.8
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水			節水型機器採用	3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	1.00		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	-		-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.4	0.63		-	2.4
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			A種IHを採用	-	4.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	2.5
1 地球温暖化への配慮			① ライフサイクルCO2排出率106%	-	2.5	0.33		-	2.5
2 地域環境への配慮				0.3	2.3	0.33		-	2.3
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制				-	3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00		-	
2 振動			独自	-	-	-		-	
3 悪臭				-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-		-	
3 日照阻害の抑制				-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	1.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

meLiV(メリヴ)主催

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE 建築(新築)2016年版+あいも版手引き

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				2.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	2.5	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:23.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 meLiV(メリヴ)土橋

計画上の配慮事項	
総合	駅ロータリーに面する立地のため、植栽を適切に配し、アースカラーを基調色として、周辺環境に配慮した計画としている。
Q1 室内環境	室環境について、F☆☆☆☆建材を全面的に採用している。
Q2 サービス性能	天井を直天井とし、天井高確保に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	共用灯はLED照明として、明暗センサーとタイマーセンサーにて制御している。
LR1 エネルギー	高効率型の給湯器を採用している。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器を採用している。
LR3 敷地外環境	適切なゴミ置き場スペースを確保している。
その他	